

平成 29 年度第 3 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 30 年 2 月 26 日（月）午後 5 時～6 時 45 分

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

長田委員、塩見委員、田中委員、松井委員

事務局出席者

金一（校長）、尚山（教頭）、田澤（事務長）、藤井（首席）、川村（首席）
各分掌長・学年主任 6 名

I. 次第

(1) 校長挨拶

(2) 協議事項

- ・学校経営計画について
- ・各分掌、委員会等の総括について
- ・本年度学校教育自己診断の結果について
- ・本校の身だしなみ指導について
- ・その他

(3) 質疑・応答

内容

<挨拶>

校長より

- ・締め第 3 回となった。長いようで短い 1 年だった。
- ・専門コース設置に向けて校内で議論が進み、先週も研修を行った。
- ・次年度から学校協議会が運営協議会となる。詳しくは後ほど説明する。
- ・次年度選抜の志望者数が厳しい状況なので、全力を尽くしていく。

<協議事項>

(委員) 学校教育自己診断において、保護者の満足度がアップしているが教員は低下している。取り組みが手厚くなる一方で教員の負担が増えているのではと心配になる。頭髪指導の取り組みは画期的だと思う。地域で協力できることがあれば協力する。

(事務局) 頭髪指導の当初は日数がひどく多かった。今は減った。負担も減っている。問題行動の件数も減った。家庭訪問も減っている。授業の準備など、質の変化が出て負担が増えた。また、クラブ活動の人数が増え、土日、出っ放しになり、働き方改革とは機を逸にしている。

(委員) 北摂つばさには地域としてお世話になっている。生徒は成長しているが先生の負担も多いと思う。バランスよく経営していただければ。制服を正しく着こなすことは重要なこと。高校生を地域で預からしていただき、成長していただくことを地域も楽しみにしている。

(委員) 身だしなみ指導については環境の問題もある。どこまで立ち入るか、家庭の状況もあり難しい面がある。つばさは勉強もクラブも充実しているのでありがたい。

(委員) 身だしなみについては、外国の文化の違いがある。茶髪の子などいろんな生徒が入ってくる。異文化の高校生を受け入れ、国際理解を充実させていくという考えは？

(事務局) 国際エリアのみならず、学校全体としてガイドラインを出す。

(委員) 大学では文化が全く違うということは無い。高校で頭髪指導をきっちりやり、大学では、はめを外し、頭髪を染めることがあり管理しているが、ついていけない。全国の高校でもそういう生徒は減り、違うところ、家庭内暴力や性的なひずみになって出ている。どこまで指導するかは当事者を交えながら話して考えていくことが必要。何でも決めてもらうのではなく、想像力豊かな子どもを育てたい。

(委員) 大学入試においては、数値のみで測るのは止めようとしている。持久力・コミュニケーション力・協調性など数値で測れないところをどう問題にするか。一つの方法は面接。集団面接などにおいていろんな要素を加えていく。例えば、高校時代の欠席数が問題になっている。欠席数だけでは測れないところ、見合ったことをどう考えるか。これからの社会は数値化ではなく、入試は変わっていく。高校でも新しい組織で、基礎科目を含め新しいカリキュラムの検討を頑張っていただきたい。

(委員) 学校教育自己診断におけるいろいろな時系列のデータがよくまとまっており、分かりやすい。学校経営計画についても、項目ごとに時系列のデータベースがあれば分かりやすいのでは。各項目について、△が結構多いのが気になった。今後どのように改善に取り組んでいくのか見届けたい。次回以降、データを示してほしい。

(事務局) 別紙資料のデータを見ていただけると分かる。後ほど、ご覧いただきたい。

(事務局) 身だしなみ指導については、学校も社会の一員である。社会の要請に応じやらしていただいている。頭髪を染めている子供を、どこの企業も採っていただけるとの指示による。校則について、生徒に読ませる部分と、学校内の部分を分けるようにとのこと。本校では頭髪を染めることは『高校生活に向き合えないSOS』として理解している。また、異文化の高校生を、外国人として一括りにするのは危険である。話し合いをしていくことが重要である。

(事務局) 学校協議会について、今までは府の条例に基づいていたが、次年度からは国の法律に基づいて運営されることとなった。今後、『コミュニティスクール』となる。具体的には、「意見を求める」から、「承認をもらう」となる。また、人事に関しても変わっていく。3月中には決定する。委員のかたには4月からも新しくやっていただきたいと考えている。